

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.22



八戸小唄「流し踊り」に短大生が参加



光星高校硬式野球部
全国高校野球選手権大会 準優勝



第21回 光星学院チャリティゴルフコンペ



全国高等学校
野球選手権大会

Contents

■ 八戸大学

- ・介護従事者のための公開講座開催
- ・八大・八短合同企業研究会開催

■ 八戸短期大学

- ・看護学科病院・各施設の資料コーナーを設置
- ・八戸小唄「流し踊り」に短大生が参加
- ・ライフデザイン学科2年生が野田村で災害ボランティアに参加
- ・看護学科「宣誓式」を開催

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・自動車科 EVスクール参加
- ・介護福祉科 介護施設実習を終えて

■ 光星学院高等学校

- ・硬式野球部 全国高等学校野球選手権準優勝
- ・関東地区光星学院の集い
- ・アクティブスクール 学習編

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・環境美化推進活動 保護者と教員で花植え
- ・硬式野球部 全国高等学校野球選手権青森県大会 準優勝



野西高 環境美化推進活動 保護者と教員で花植え

第93回全国高等学校 祝 準優勝

光星学院高等学校野球部今夏成績

◇青森大会

○2回戦

五戸	0	0	0	0	0	0					0
光星学院	2	0	2	2	1	3X					10

(6回コールド)

○3回戦

大湊	0	0	0	0	1	0	0				1
光星学院	0	0	0	2	2	1	3X				8

(7回コールド)

○4回戦

光星学院	3	8	2	0	0					13
浪岡	0	0	0	0	0					0

(5回コールド)

○準々決勝

光星学院	0	9	0	6	0	0	0	0	0	15
青森山田	2	0	0	3	5	0	0	0	0	10

○準決勝

木造	0	0	0	0	0	0				0
光星学院	4	0	2	2	0	2X				10

(6回コールド)

○決勝

光星学院	1	0	4	0	0	0	2	1	1	9
野辺地西	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

◇全国高校野球選手権

○2回戦

光星学院(青森)	0	0	5	0	1	7	1	0	2	16
専大玉名(熊本)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

○3回戦

光星学院	0	2	4	0	0	0	0	0	0	6
徳島商(徳島)	0	3	2	0	0	0	0	0	0	5

○準々決勝

光星学院	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
東洋大姫路(兵庫)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

○準決勝

作新学院(栃木)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
光星学院	2	0	0	0	0	2	0	1	×	5

○決勝

光星学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日大三(西東京)	0	0	3	0	1	0	5	2	×	11

光星学院



校野球選手権大会

ありがとう

第93回全国高校野球選手権大会（開催期間 平成23年8月6日～20日まで 15日間）が開催され、光星学院高校硬式野球部は見事準優勝に輝きましたが、8月22日学校へ凱旋した後、野球部員3名による飲酒が発覚しました。祝賀ムードが一転し、連日のマスコミ報道の中、平成23年8月25日全校生徒に対して、甲子園大会の準優勝の報告会が開催され、学校長より次のように挨拶がありました。

ただ今、橋場副校長先生、仲井監督、川上主将から甲子園大会の準優勝報告がありました。本来だと全国4014校の2番として、この会場がお祝いの雰囲気にも包まれたものでなければならぬはずでした。しかし、私たちは選手一行を出迎えたわずか数時間ののち、選手3名の飲酒という事実に出会い、喜びから困惑に転じてしまいました。

このことは粉れもない事実で、多くの人たちにご迷惑をお掛けすることになりました。ですから、すぐに先生方と相談をして、公にすることはとてもつらい事でしたが、やっぱり高校生の飲酒は悪いことなので、悪いことしたらしっかり謝ることが人間として大切なことだと思ひ、マスコミの人たちに集まってもらい記者会見を開きました。そして、私は学校を代表して、ご迷惑をお掛けした多くの人たちに謝罪させて頂きました。また、この3人の生徒のこと、野球部のことについては、高野連というところの考えに従っていきたくと思っています。今日は、あれほど精一杯応援してくれたみなさんですから、皆さんに感謝するとともに、本当に申し訳ないと思っています。

今日までの経緯は、すでに新聞・テレビを通じて、皆さんも知っていると思いますが、改めて先生方を通じて、今朝説明した通りです。とても残念ですが、こうしたあつてはならない事実と、日本国中の関心を集め、沢山の叱咤とご意見を頂いたことは、私たちは真摯に受け入れなければなりません。

このことがニュースとして全国に流れてから、今も毎日電話やFAXやメールでお叱りが沢山来ています。でもその中に、頑張れ光星と言ってくれる人たちもいてありがたいと思ひました。準優勝も返すべきだという声もあって、毎日悩んできましたが、学校だけで校長が決める問題ではない。確かに規則を破った選手がいますけれど、生徒の皆さんが日々苦しい練習を乗り越え、全校生徒の応援を得て勝ち取った準優勝であると考え、野球部の選手たちと生徒会の生徒たちと相談をして、私は光を放たない準優勝かもしれませんが、預かれるものであれば、預りたいと思っています。

今回の甲子園大会の決勝の翌日の新聞に、八戸出身の歌人、梅内美華子さんが「光星ナインをたたえる」と題して寄稿して下さいました。そのタイトルに「白球を見つめる君が 積んできた 汗と時間に わたしも祈る」と詠んで頂いています。そして、「光星学院野球部の皆さん、感動をありがとう。忘れられない2011年の夏になりました。」と結んでいます。ありがたい寄稿で、今、素直にこのお心に感謝を申し上げたい。甲子園での戦いぶりには確かに、被災地の人たちをはじめ、多くの人たちに希望と勇気と元気を与えることができたと思ひます。一瞬でも一時でも、そうした事実があったことを大切にしたいと思ひます。

また試合も大事でしたが、誰にも経験出来ない人生の中で、大きな大きな収穫を得ることが出来たことは、選手も私たちも一緒に、喜びも辛いことも光星という文字と一緒に知りました。今回の準優勝は一人で勝ち取ったのではなく、相手があればこそ生まれた宝ものです。

今までの対戦校と、日大三校に感謝です。忘れられない2011年の夏とチームの絆、人生の中で永久に心の中に残る思い出を作れた諸君と、私たちはそうした経験を共有して、明日からまたみんなで胸を張って堂々と歩いていきたいと思っています。

今、下を向きたくなくなる気持ちを、私たちの持つ底力で、正面を向いて生活していきましょう。そうしていつかこの準優勝が、光を放つことを楽しみに頑張っていきましょう。

連綿と続いてきた本校の伝統を大切に、今おかれた現状に感謝をし、未来に希望を持って進んでいきましょう。

私たちが、私たちが物心両面で応援してくれた人たちや、野球を愛する人たちががっかりさせたことを、野球部だけの問題にするのではなく、我々全校の問題ととらえて、生徒・教職員一体となって、これから頑張っていかなければならないと思っています。

最後に、甲子園に出るたびに発行してきた短歌集から、1年生の作品を紹介して終わります。

暑い日に 心ひとつに 全校応援 球場に揺れる 黄色いメガホン

平成23年8月25日

光星学院高等学校

校長 法官 新一

第21回 光星学院親睦チャリティゴルフコンペ

第21回光星学院親睦チャリティゴルフコンペが、8月5日に八戸カントリークラブにて開催されました。

今年は東日本大震災の影響が懸念されましたが、県内外の活気あふれる企業や



外郭3団体（父母の会、後援会、同窓会）のご協力の下、昨年を大きく上回る144名の参加者により盛大に行われました。

コンペ終了後八戸プラザホテルアーバンホールにて、コンペ表彰式及び懇親会が行われ大会長（中村覺理事長）の挨拶のあと、チャリティーの収益金が東日本大震災復興支援金として八戸市奈良岡副市長へ寄贈されました。

光星学院高等学校の「甲子園出場」という明るい話題もあり、大変賑やかに表彰式並びに懇親会が行われました。なお、コンペ優勝者は三浦晃造様（デーリー東北新聞社）でした。



‘11 そうけん土曜講座

地域住民に生涯学習の一環として大学レベルの知識と学習機会を提供することを目的とした「‘11そうけん土曜講座」の全10講義（土曜日開催）が終了した。6月11日から7月23日にかけて計5日間にわたり開催され、受講料は無料で、のべ261名が受講した。講義は八戸大学、八戸短期大学の教員や、外部講師により「心理」「まちづくり」「歴史」「災害」「看護」「個人と地域の将来設計」「言葉と文

化」など多岐にわたる内容で行われた。岩手日報記者の太田代剛氏による東日本大震災についての講義では、関心をもつ方が多く被災直後の写真を見ながら熱心に話を聴かれていた。街カフェみなどを会場に講義も行い、普段とは異なった雰囲気での講義となり好評であった。IBC岩手放送アナウンサーの菊池幸見氏や八戸聖ウルスラ学院高等学校の梶谷伸夫先生、八戸短期大学の茂木典子教授が講師

を務めた方言についての講義では、さまざまな方言の例を用いて笑いのある講義となった。



八戸大学後援会理事会が平成23年6月22日(水)に八戸第2ワシントンホテルで開催された。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。また、山田政信会長が東日本大震災において大学の多くの学生と教職員が被災地でボランティア活動を行っていること述べ、事務局より活動内容等を報告した。

八戸大学同窓会評議員会が平成23年7月2日(土)に八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィスで開催された。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。また、支部設置について南東北支部と岩手・秋田支部が10月に発足することとなり、併せて会則改正も行われた。



■ 外郭3団体(後援会・同窓会・父母の会) ■ 総会開催される

八戸大学父母の会総会が平成23年7月9日(土)に八戸商工会館で開催された。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。総会后、カレッジアドバイザーによる個人面談が

行われ、面談を希望した保護者は担当のカレッジアドバイザーに、教務(成績関係)・学生生活・就職等々に関して、熱心に様々な質問をし、有意義な面談が行われた。

● 介護従事者のための公開講座開催

平成23年6月26日に八戸大学にて「介護従事者のための公開講座」を開催しました。この公開講座は、4年前に八戸大学、光星学院専攻科の有志の教員と八戸市内の介護職員がゼロから立ち上げて開催してきた企画です。参加申込者も年々増加し、今回は事前申し込み者数が500名を超え、ようやくこの公開講座が地域の介護職・福祉職の皆さんに受け入れら

れてきたのではないかと感じています。

また、今年は、大阪府、新潟県、長野県、神奈川県、東京都からの参加者おり、神奈川県から参加した人は、「日帰りでハードなスケジュールだけど、講座の内容がとても面白そうだったので無理して来てしまいました」と話されていました。また、被災地からの参加者が多かったこともわかりました。背景には、岩手県、宮城県で予定されていた研修の多くが中止となってしまう、スキルアップをする機会が減ってしまったことが影響していると思います。

また、資料集の表紙のイラストは、週刊イブニングに「ヘルプマン」を連載している漫画家のくさか里樹さん(今年の第40回日本漫画家協会大賞を受賞された人です)に書き下ろしで書いていただい

たイラストです。くさかさんが東北のヘルプマン(介護職)を応援する気持ちで書いていただいた力作です。原画は篠崎研究室に飾ってありますので、興味のある方は、どうぞお越しください。

今回の公開講座は10講座を企画しましたが、これらの企画はすべて地域の介護職の皆さんとの話し合いの中から決定しています。つまり、主催者側が伝えたい分科会だけではなく、参加者が聞きたい講座を準備することで、より有意義な研修会になったと考えています。

八戸大学人間健康学部には社会福祉士コースがあります。また、光星学院専攻科には介護福祉士コースがあります。このように援助専門職を養成することも大切ですが、今回の公開講座のように、高等教育機関として地域の介護力や福祉力の底上げをする機会を作り出すことも大切なことだと感じています。

八戸大学人間健康学部 教員 篠崎良勝



開催日：平成23年6月20日(月)～24日(金)

時間：13:00～15:30

会場：八戸大学学生会館2階会議室

対象：八戸大学4年生・3年生

八戸短期大学2年生

参加学生：のべ146名

(八戸工業大学7名含む)

参加企業：31社

主に大学4年生、短大2年生を対象にした合同企業研究会を6月に開催した。3月の震災で参加企業数にどう影響が出るか懸念されたが、例年を上回る県内14社、県外17社の31社(1社欠席)、医療・福祉業や情報・通信業、製造業、外食産業、不動産業などの多くの業界からの参

● 八戸・八短合同企業研究会開催

加があった。昨年度から本学の学生会館を利用して5日間の開催という事で、一日に5～7社絞りに、希望する学生との説明の時間を大幅に増やした。結果、学生たちは積極的に関心のある企業のブースを訪れ真剣なまなざしで説明に耳を傾けていた。企業の採用担当者も一人でも多くの学生と話がしたい、良い学生にめぐり合いたいと学生を前にして、熱のこもった説明をしていた。また、学生は授業の合間を縫って講義を休まなくても参加できると好評であった。参加学生は5日間で、のべ146名(八戸工業大学7名

含む)であった。

双方の熱心さが会場に溢れんばかりの雰囲気をかもし出し、いつしか終了時間がきたのも忘れさせる場面が見られた研究会であった。



講座・セミナーの開催について

八戸大学・八戸短期大学総合研究所では、9月以降に開催する講座・セミナーの受講生を募集している。研究所では、年間を通して様々な講座を実施しており、一部の資格取得講座については、本学院に在籍する生徒・学生の受講料を無料としている。申込方法など詳細については総合研究所のホームページ(<http://research.hachinohe-u.ac.jp>)にて確認してください。

「新農業ビジネスI」公開講義

開催日：9月16日 12:40~14:10 (3時限目)
 テーマ：新農業ビジネス—ビジネスの視点から農業を見直す(仮)
 講師：八戸大学客員教授 鈴木 誠氏(㈱ナチュラルアート代表取締役)

地域医療セミナー

開催日：10月18日 9:00~10:20 テーマ：これからのチーム医療
 講師：聖マリアンナ医科大学学長 三宅 良彦 先生

スポーツリーダー養成講習会(日本体育協会公認資格)

開催日：10月22日・23日
 受講料：15,750円(大学・短大生) 10,500円 ※別途テキスト代
 受講資格：18歳以上の方

あおもり観光人財育成事業「11 八戸観光大学」

開催日：11月3日、5日、6日、12日、19日、23日、26日
 講師：12,600円

日商簿記2級受検対策講座(平成24年2月の検定に向けての講座)

開催日：11月26日~2月25日までの毎週土曜日(12月31日を除く)
 受講料：52,500円 ※本学院に在籍する生徒・学生は無料 テキスト代実費
 受講条件：日商簿記3級合格者または同等の知識を有する方

平成23年度 特別研究費 採択される

平成23年度の八戸大学・八戸短期大学特別研究費は、東日本大震災の復興に係る地域社会の再構築に関するテーマを優先支援することとなり、そのテーマに沿って八戸大学・八戸短期大学の教員から多くの申請が出され、審査の結果、八戸大学ビジネス学部4件・人間健康学部3件、八戸短期大学看護学科1件の交付が認められた。

【ビジネス学部】

- ◇ 丹羽浩正・ビジネス学部連合プロジェクト「被災地復興に向けた協同研究」
- ◇ 村本 卓・矢野峰生「観光地におけるリスクマネジメントと安全・安心避難モデルの研究—種差海岸の三陸復興国立公園(仮称)におけるトップブランドを目指して—」
- ◇ 田村正文「地域経済復興におけるNPO部門の役割に関する基礎的調査・研究~産学官連携に向けた資金調達と地域経済・経営的研究~」

【人間健康学部】

- ◇ 吉田 稔・人間健康学部協同プロジェクト「三八地域における健康影響の近未来予測(八戸広域健康づくりプロジェクト)」
- ◇ 関川幸子・石川 彪「介護従事者の教育制度に関する調査研究—ドイツの優れた先行向上教育制度を調査する—」
- ◇ 三島隆章「奥入瀬渓流での散策がストレス度の及ぼす効果・八戸市近郊の景勝地におけるマイナスイオンマップの作成」

【看護学科】

- ◇ 工藤千春・壬生寿子・天摩雅和「農業を営みながら在宅認知症高齢者を介護している主介護者の生活の実態と介護に対する思い」

「八戸大学」OB&OG訪問 part22



仙台育英学園秀光中等教育学校
 教諭・軟式野球部監督
 須江 航さん
 (22回生)

プロフィール

仙台育英学園高校卒、八戸大学22回生。学生時代は、硬式野球部に所属。卒業後、秀光中等教育学校にて軟式野球部監督として指導にあたる。同校は、第32回全国中学校軟式野球大会(平成22年)初出場ベスト8。

Q：学生時代の思い出を教えてください。

A：硬式野球部に所属しマネージャー兼学生コーチをやらせてもらいました。授業との両立が大変でしたが、もともと

と指導者を目指した自分にとってとても大事な経験をさせてもらった4年間でした。

Q：監督として気をつけていることはありますか？

A：最初から私の考えを押し付けるのではなく、必ず選手本人にプレーの意図を聞いたうえで、アドバイスのようにしています。どんなに身体能力が高くても、判断する力・判断するスピードが伴わなくては試合に活かせません。そういう意味で練習中の選手との会話や議論は重要だと思っています。

Q：震災時の学校について教えてもらえますか？

A：震災時は授業中でした。生徒は皆敷地内にいましたし、校舎の破損が少なかったのが怪我もなく無事でした。地震後津波が来ました。大体1.5mくらいは浸水したと思います。その日は生徒を校舎へ泊め、翌日スクールバスで生徒を送りました。校舎破損は少なかったのですが、敷地内の液状化がひどかったです。

本校から少し海側へ行くと、建物が流され、町の変貌ぶりに唖然としました。学校はしばらく休みとなり5月から新年度が再開となりました。その間、復旧作業を行い、今では生徒たちと練習ができています。

Q：今の目標は？

A：監督1年目から日本一をかかげており、“日本一にふさわしいチーム”を目指しています。平成22年には、全国中学校軟式野球大会ベスト8となり、日本一が無謀な目標ではないことが分かりました。選手たちにはとても感謝しています。地震により多くの生徒が被災者ではありますが、今の困難を乗り越え今年こそは日本一を目指したいです。

Q：最後に在学生へメッセージをどうぞ。

A：私は在学中、たくさんの失敗をして、多くの方にご迷惑をおかけしました。その度に、心ある先生方や仲間へ助けられ現在に至ります。八戸大学での4年間は人生の中でかけがえのない時間となります。学生だからできるチャレンジを充分にしてみてください。

平成21年に八戸短期大学に看護学科を開設し、今年度1回生が卒業を迎える。これに合わせて、就職支援課では看護学科を対象とした資料コーナーを設置した。

開設年度から少しずつ、県内・県外問わずに担当者の訪問があり、昨年度6月頃からその数が急激に増え始め、現在では、300余りを越える病院・施設等から看護師募集の要項がきている。これは、看護師を取り巻く就職環境が首都圏を中心に「売り手市場」であることや勤務環境の変化などが考えられる。看護配置基準を従来の10:1から7:1を取り入れる現場が増えるなど、看護師の大幅増員

に迫られている現状があるようである。そこで、就職支援課では頂いた資料を病院ごとにファイルに収め、学生が自由に閲覧できるよう、コーナーを大幅に増加して対応している。連日、3年生を中

心に「実習」や「国家試験の対策」の空き時間を利用して、目当ての資料を見に来ては、将来希望する職場の情報収集に余念がない。



宿泊研修

平成23年4月16日～17日（1泊2日）奥入瀬溪流ホテルにおいて、八戸短期大学新入生宿泊研修が行われた。この宿泊



研修は、新入生相互ならびに教職員・リーダー学生との親睦を図るとともに、学生生活及び学修の方向付けを身につけることを目的として毎年行われ、今年で5回目の開催となった。

1日目はエンカウンター、学科研修、学生会歓迎セレモニーが行われた。エンカウンターでは、外崎学長補佐にご指導いただき、リーダー学生が中心となり、「ジャンケン列車」「自己紹介と他己紹介」「アイスブレイキング」「人

間知恵の輪」などを実施し、他者と協力し合い自分を表現することで、より深いコミュニケーションを体験できた。学科研修では、各学科の特色を活かした内容が企画され、学科内の親睦が図れた。

2日目は学歌指導と流し踊り実技指導が行われた。学歌指導と流し踊りは、担当教員とリーダー学生が中心となり指導にあたった。

2日間のプログラムを無事に終えた新入生たちには、入学時からの緊張を緩和させ、新たな仲間と共に希望に満ちた充実した短大生活を送って欲しいものである。



スポーツ祭り開催



学生会主催のスポーツ祭りが6月1日(休)の午後に短期大学前の運動場で開催された。このスポーツ祭りは、短期大学3学科が一堂に会してゼミごとに分かれて対抗するという形式で実施されており、スポーツを通してゼミ生相互ならびに教員との親睦を深めることを目的として毎年開催されている。

今年の種目は、事前に学生からアンケートを取り、長縄跳び、キャタピラ競技、リレーの3種目に決定。白熱した競技が繰り広げられ、運動場には笑顔と歓声、そして惜しめない拍手や大声援が響

き渡った。総合順位では幼児保育学科の橋本ゼミが1位となり今年度のスポーツ祭りの栄冠を手にした。天気にも恵まれ、広々とした運動場で実施されたスポーツ祭りは、学科の枠を超えて親睦を深めることができ、学生たちにとって有意義な時間となったようである。



八戸小唄流し踊り

7月15日(金)午後5時30分の号砲とともに、八戸市の夏祭り到来を告げる第41回八戸小唄流し踊りに八戸短期大学1年生約220名が、若さあふれる踊りと彩りを添えた。

本番を前に幼児保育学科、ライフデザイン学科、看護学科の学生が体育の時間



を利用して本番へ向けた練習を体育館で行ってきた。流し踊りの講師には、体育の専任講師を中心に踊りの基本から手ほどきした。最後のまとめとして、毎年指導していただいている泉流日本舞踊師範の泉紫峰氏と泉彩菜氏らから、踊りの指導をしていただいた。練習に取り組んだ学生たちは「背筋を伸ばし、目線を遠くに」や「指先に気を配って美しく踊りましょう」など、カモメや波の動きを表現する優雅な振り付けを熱心に踊っていた。緊張しながらも、いかに美しく踊るかの細かいアドバイスを受け、のみ込みの早い学生たちは踊るたびに上達していった。

当日は小雨が降る天候ではあったが、約千人の踊り手たちが号砲を合図に十三

日町の三春屋前をスタートし、七夕飾りの下をゆっくり進んだ。哀調を帯びた八戸小唄の調べに合わせ、市連合婦人会を先頭に日本舞踊の団体が次々と登場。本学の出番になると小雨も止み、色鮮やかな浴衣に身を包んだ学生たちが中心街を彩っていた。

緊張しながらも一生懸命踊っていた学生たちは、沿道で見守っていた市民の方々から大きな拍手をいただき、八戸短期大学生が若さあふれる華やかな踊りを披露した。



日本サッカー協会公認

キッズリーダー講習会

幼児保育学科では、平成22年度より所定の講習を受講することで「日本サッカー協会公認キッズリーダー」の資格が取得できるようになり、1年次配当科目である「体育実技」の講義内で、「日本サッカー協会公認キッズリーダー養成講習会」が実施されている。この養成講習会では、所定の講習・実技(指導実践含む)を受講することで「日本サッカー協会公認キッズリーダー」の資格が取得でき、一度取得すると永久的に資格を保持することができるものである。

時代の流れの中で、子どもたちを取り巻く環境も随分変わってきており、キッズリーダーは、子どもたちが最初に出会う指導者であるため役割も大きく、日常的に身体を動かすことを存分に楽しむこ

とができるよう、キッズリーダーがサポートすることが一役となっている。

講義では、基礎理論(1コマ)と実技指導(3コマ)を通して、「時代と子ども環境の変化」「こどもの発育発達概観」「子どもたちへの接し方」「スキルゲーム」「フェアプレー」等々、学生たちはキッズリーダーに必要な知識を学び、キッズリーダー(U-6)の資格を取得した。



「造形御神輿」制作に挑戦!

毎年、幼児保育学科の学科行事として実施していた「砂浜彫刻」が、東日本大震災の影響のため、急遽企画を変更し、



7月6日(水)に短期大学前の運動場で、ダンボールでつくる「造形御神輿」制作に取り組んだ。

巨大造形物を協力して制作することは、造形が持つ個人的活動性を転化し、迅速かつ効率的に造形物を作ることを体験できる。正確な役割分担を行い、時間を余すことなく造形に関わることで、制作の終了時に味わう達成感は、個人作業からは得られないものがある。

また、段ボールという身近な素材を利用することは、保育造形を行う上で活動

の手助けになる技術を身につけ、立体的造形の体験は、個人の立体感覚の向上に繋がる。この「造形御神輿」は、学生自身が面白さを見出し、主体的に活動できるよう設定された。

今回のテーマは「絆」。ゼミごと12グループに分かれ、事前に制作していたマケットでイメージを膨らませた学生たちは、はさみやカッターで段ボールを切り取り、ガムテープで形を作っていく作業を何度も繰り返す。汗まみれになった学生たちは、約3時間協力しながら作品の制作を行った。完成された御神輿を学生たちは元気一杯担ぎ上げた後、ゼミごとに御神輿を囲みながら記念写真を撮っていた。

看護学科 宣誓式

平成23年度八戸短期大学看護学科第2回宣誓式が5月14日(土)、八戸大学会館において挙行された。宣誓式とは、看護の道を志し入学した2年生が、1年余りの基礎看護教育を終えた後、看護の専門性と責任を再認識して看護の道を歩むことを誓う式であり、今回は2期生88名が主役である。宣誓の儀では、キャンドルを手し、本学の建学の精神である「神を敬し人を愛する」ことに基づき、学び続けることを、そして生かされている恵みに感謝し、多くの苦難を乗り越えていくことを力強く誓った。宣誓の儀に続き、蛇口浩敬学長が式辞、続いて社団法人青森県看護協会齋藤文子会長の祝辞が述べられた後、学生を代表して松橋佳永さんによるお祝いの言葉に続き、宣誓者を代表し、市ノ渡みなみさんより「災害などの緊急事態に、一人でも多くの命を支えられる看護師になりたい」と決意を述べ、

最後にいつくしみと愛と学歌を斉唱し、宣誓式は終了した。

後日、会場から羨望のまなざしを向けていた一年生の声が届いた。「先輩が輝いて見えて来年の今頃、自分もそうありたいと思いました。」「ちょうど入学して気持ちがたるんでいたもので、気持ちが引き締まる感じがしました。」「普段、あまり意識していなかった先輩たちがすごく大人に見えて素敵だと思いました。」「やっぱりこの道を選んでよかったと再認識しました。」など。

今年で三学年を迎えることができ、先輩後輩の関係が樹立されてきている。実習中である三年生からのエールは、二年生だけでなく一年生にとっても頼もしく感じられたに違いない。

宣誓式に引き続き、宣誓式特別記念講演が開催された。はじめに看護学科長蛭田由美より講師の石垣靖子先生(北海道医療大学大学院教授)を紹介、石垣靖子先生は「看護を志す後輩に伝えたいこと」と題し、ご自分の経験や体験したことをもとに講演を行った。学生にとってもわかりやすく心に響く内容であり、参加された来賓の方々からも「こういった機会をいただきありがたかった。」と感謝され、多くの方々にとって記念となる宣誓式となった。



6月29日(水)、ライフデザイン学科2年生の約30名が、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県野田村を訪問した。

訪問に先立ち、6月8日(水)本学において、野田村在住の八戸大学OBである小野寺隼哉氏と野竹雄介氏に、被災状況について話していただいた。

学生たちは、被害の大きさに改めて驚くと共に、特別養護老人ホーム職員、消防団員として、避難誘導や行方不明者の捜索に当たり、地域の復興のために力を尽くすお二人の姿勢に、「自分たちも、少しでも出来ることをやりたい」という思いを強くしたようである。

訪問当日は、被害が大きかった中心部

野田村の災害ボランティアに参加

を通り、破壊された堤防や線路、津波で流された写真を保管している写真保管所などの様子を見学した後、二つのグループに分かれ野田村保育所と特別養護老人ホームことぶき荘に訪問した。

野田村保育所では、本学で開講している「レクリエーション論」で使用している遊具を使つての玉入れやボウリングのほか、砂場遊び、おにごっこをした。子どもたちと交流をした学生たちは、子

もたちの笑顔がとても印象的だったと話していた。もう一つの訪問先であることぶき荘では、3グループに分かれて体操や輪投げ、風船を使ったバレーや歌を歌って楽しんだ。最後は入所者の方々、一人ひとりと握手をし、涙のお別れとなった。

午後は、NPO法人やませデザイン会議による「野田村をお花でいっぱいしよう」の活動に全員が参加。一日も早い

復興と野田村が明るくなるようにと願いを込めて、それぞれが花を選んで植えたプランター40個を、三陸鉄道陸中野田駅前に並べ寄贈した。



光星学院高校専攻科

楽しく学べるEVスクールに参加して

環境自動車であるEV（電気自動車）を制作した、エコブリッジ・東北自動車さんの「楽しく学べるEVスクール」に参加した。6月から9月までの期間で、全4回の講座である。

第1回目と第2回目は主に座学が中心で、これからの自動車社会についてや電

気自動車のしくみ等を学んだほか、現在市場に出ている「日産リーフ」に試乗することができた。

運転してみると、加速性の良さ・音の静かさを実感し、まるで自動車ではないようであった。

7月17日、第3回目となる講座は、EVの分解・組立であった。

実際にEVを目にして、まず部品の少なさに驚いた。

ガソリンエンジンやジーゼルエンジンとは違い、

モーターとバッテリーで走行するため、作りは簡単ですっきりしていた。

非常に高い電圧のため感電すると死に至ることもあり、作業する際には、感電に気をつけるようにと何度も注意があり、現場は緊張感が漂っていた。

今後9月に第4回目が開催され、このスクールは終了となるが、これまでの講座だけでもとても充実した内容だったと思う。

電気自動車の技術は急速に進化しているので、自動車の未来が楽しみになってきたし、このスクールによって様々な体験をすることができ、電気自動車への関心が高まった。

これからもこのような活動に参加し、将来の夢である自動車整備士に向かってさらに学習に取り組みたいと思う。



今回の介護実習Ⅱ-Iでは、個別性を理解し受け持ち利用者の介護過程を展開することを目的として、約1ヶ月間行われた。私の受け持ち利用者は93歳の女性で、要介護5、重度認知症と難聴のある利用者であった。

最初はほとんど話のつじつまが合わず、理解するのが難しく言葉もなかなか出てこないため、コミュニケーションを図ることもたいへんだった。

しかし、学校で学んだコミュニケーション技術の促しの技法や、繰り返しの技法などを用いて意図的にコミュニケーションを図り、非言語サインを見逃さずに利用者のADLの状態、生活歴や価値観などから利用者の立場に立った介護計画を立案した。

目の前にいる利用者向き合い、せか

介護実習を終えて

さずゆっくり・じっくり待って話を聴き、謙虚な気持ちで受け止めて観察することで利用者との信頼関係を構築することができた。

利用者のニーズの把握や残存能力を引き出して活用することで、表情も明るくなり笑顔も増えて意欲も出てきたし、他の利用者とも笑顔でコミュニケーションを図る行動が見られるようになった。

利用者から「ありがとう」の言葉もいただけるようになり、指導者からも「ずいぶん変化が出てきて明るくなったね」と良い評価を得ることができた。

この1ヶ月間の実習で、利用者をよく観察し表情などの非言語サインを見逃さ

ず、状態に合った介護を提供することで利用者が満足感を得られることを体験した。

介護は人間相互の関係で成り立つこと、コミュニケーションが重要であることを実感し、個別性に寄り添った質の高い介護が提供できるように努力していこうと思う。



オープンキャンパスのスタッフとして

7月9日に開催されたオープンキャンパスが行われ、参加した高校生の体験実習で小型エンジン（2サイクル単気筒）の組立・始動を補助した。

自分は普通高校から専攻科に進学し、自動車の知識はゼロに近い状態からのスタートであり、入学してからまだ3ヶ月ほどしか学んでいないためうまく教えることができるか心配であったが、専攻科の先生方と同じく分かりやすいようにと意識して教えた。

担当した生徒さんは、暑い中でも熱心に説明を聞き、次に組み付ける部品を手にとって合わせてみたりと、組み上がっ

ていくのが楽しいようであった。

最後にカバーがうまく取り付けられない等のトラブルもあったが、どうしたらよいかを一緒に考えながら作業し、自分でも楽しみながら生徒さんの体験実習を補助できた。

組み立てが終わり無事にエンジンが始動すると、生徒さんも達成感を感じていたようで、補助した自分も満足感が得られた。

今回の実習補助を担当し自分が学ぶことも多くあり、これからもたくさんの知識・技術を身に付けて、自動車整備を楽しんでいきたいと思った。



光星学院高校

去る6月10日、全国放送のラジオ番組『ラジアンリミテッドフライデー』の被災地応援企画「POCKY 放課後のMUSIC ROOM」の収録が、本校体育館で行われた。これは、株式会社ジャパンエフエムネットワーク、株式会社電通、株式会社エフエム青森の企画で行われたもので、全国の被災地を訪問し、歌とお菓子和笑顔をお届けするというものであった。被災地である八戸を取材すると決まった時に、八戸には光星学院高等学校があるから是非、そこで収録をしたいと番組担当者からエフエム青森に連絡があったと

「ラジアンリミテッド」被災地応援企画～奥華子ミニコンサート～

のことで、これを受けて、今回の収録となった。この日は、グリコワゴン（大きなグリコポッキーの箱が屋根になっているワゴン車）も大阪からやって来た。

生徒たちは、赤いポロシャツを着た大勢のグリコスタッフから、体育館の入り口で、ポッキーやビスコ、グリコ（キャラメル）などたくさんのお菓子を受け取り、入場。DJのやまだひさしさんの司会で収録が始まった。川上龍平硬式野球

部部长、佐々木七海チアリーディング部部长、風間航吹奏楽部部长の3名が、震災当時のボランティアの様子をインタビューされた。部員全員で保育園のグラウンド整備に行ったことや避難所を訪問し、演技や演奏をしたことなどを話し、今後も震災復興の手伝いをしていき、早くみんなが元気になって欲しいと話した。その後、奥華子さんのミニコンサートが行われ、「ガーネット」「君の笑顔」「初恋」

の3曲を熱唱。歌唱力のある、透き通ったすばらしい歌声に、全校生徒は元気と勇気もらい、心癒されるすてきな時間を過ごした。収録の様子は、6月17日(金)の深夜、全国に放送された。

教頭 加藤 康子



出会い～いい女

6月末、光星学院高校の生徒に「いい女」「いい男」になって欲しい、という願いを込めて今年度最初の「本物」から学ぶ講演会が行われた。

講師の元宝塚女優の初嶺磨代さんは、当初予定していた方が体調を崩され急遽



「代役」となったのだが、まるでダブルキャストの講演会で「もう一人の主演」と思えるほどの素敵な輝きをもって全校生徒の前に現れた。ご自身も語った「内面を磨く」「内側を

鍛える」ことの大切さは「スーッと流れるような身のこなし」「凛とした姿勢」「背筋がピンと伸びた座り方」などの立ち居振る舞いに表現されていたように感じた。何よりも、「語り口」「語る仕草」「語る表情」は「カッコイイ素敵な女性」そのものであった。



どんな女性が「いい女」だと思いますか？の問いに、「自分に矢印を向けるひと」「謙虚なひと」「責任あるひと」と挙げたが、話題になった「ブスの25箇条」には一つ一つ頷き、今のご自分を振り返っているかのような様子に「さすが宝塚ジェヌ」と感嘆した。

昔、宝塚音楽学校の壁に貼られていたという「こうするとブスになる」という25の戒めは、人間としてあるべき姿を逆説的に示しているのだが、生徒諸君には「自省のポイント」として価値があったと思う。笑顔がない。お礼を言わない。目が輝いていない。自信がない。希望や信念がない。他人をうらむ。グチをこぼす。謙虚さがなく傲慢である。何でもないことにキズつく。自分がブスであることを知らない・・・今のあなたは？

校長補佐 小野寺 實

昨年までは「就職者激励会」と称して、関東地区の就職者を対象に企業、卒業生に案内をして、本校同窓会と合同で開催してきた。今年度は、新たに大学進学者も招待して、事業所後援会、同窓会関東支部、雇用企業関係者の参加をいただき、6月24日都内のアルカディア市ヶ谷において、「関東地区光星学院高等学校の集い」と名称をかえ、開催した。

集いでは、雇用企業を代表して、「駒形どぜう」渡辺孝之社長と「第一ビルメンテナンス」三浦光一社長、乾杯ご発声は菊池孝志同窓会関東支部長（昭和37年

卒）、中締めには「三進工業」宮崎課長代理の方々より激励の言葉をいただいた。

幅広い年代に集まっていたこと、世代を超えて交流が深められ、昨年までの雰囲気とは違うものが感じられた。来年度はさらに参加者を募り、情報交換の機会として、また卒業生の拠り所となるような充実した集いを目指したい。

進路指導部長 岩館 精一

関東地区 光星学院高等学校の集い



ジュニア・インターンシップで仕事の現場体験

ビジネス科3年生20名は、7月4日(月)から3日間の校外実習。工業技術科(自動車整備士コース・工業技術コース)3年生45名は、7月4日(月)から5日間にわたり現場実習を行った。

ビジネス科の生徒は、製造業、小売業、サービス業、公共施設など多岐にわたる企業や事業所など、実際にレジでのお客



様の対応、和菓子等の製造販売、商品のシール貼りや袋詰め、イベントの後始末や芝刈り等様々な仕事に本当に一生懸命取り組んでいた。また、工業技術科の生徒も、自動車ディーラー、板金塗装作業、建築・建設作業、機械加工・溶接、電気工事配線作業など、直接現場に触れることができた。



生徒たちは、短期間ではあったが、仕事の大変さや仕事に対する厳しさを肌で感じる事ができたと思う。この貴重な体験を、今後の就職活動や進路決定に向けて大いに役立ててくれると思う。

最後に講演を頂いたプラザホテル営業部長 下館様、そして実習にご協力いただきました各企業・事業所などの皆様には、お忙しい中大変ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

ビジネス科・工業技術科
科長 類家 清斉

アクティブスクールは、中学生の皆さんに授業を実際に体験してもらい、本校を理解してもらうこと、さらに進路決定の参考となるようにという趣旨で開催しているものである。

今年度から、「医療看護進学コース」が増設され、4学科9コースで20の講座を開設した。保育Iコースの講座では、定員を超える盛況ぶりであった。次に普通科の「進学」をテーマにした講座に人

アクティブスクール学習編総括

気があり、本校の特徴である「総合学科」という一面をのぞかせているように思われる。

アクティブスクールへの参加者は、7月28日・29日の両日で、引率の先生方・保護者の方を含めると1,000名を越えるものとなった。

これは、本校に対しての関心の表れと捉えることができ、今後ともさらに精進を重ね、努力する姿勢が重要だと感じている。

今回は学習編の開催であったが、8月20日に部活動編の開催も予定している。

教務部長 高橋 亨



ものづくりの楽しさ満喫!

今年度第1回目の母親研修会は、「ドライフラワーをつかっての作品制作」です。7月6日生徒会館1階を会場に、19名の参加者が、ものづくりの楽しいひとときを過ごしました。校長先生も参加なさって、手際よくかわいいドアベルを完成させていました。

講師に、「アートセンターめいぶる」副会長の澤口美沙子様、同じく久保様、細田様をお招きし、丁寧に教えていただきました。

今回は、リース・ドアベル・タペストリーの三種類から選んで作りました。短い時間での制作でしたが、できあがりは、みなさん大変満足のいくものだったようです。オプションの額や、壁掛け帽子、キーホルダー、栞に、挑戦している方もありました。参加した皆さんは口々に、「時間の経つのも忘れて熱中しました。」「楽しく和やかなひとときを過ごせて満足です。」との感想を述べていました。

総務部長 赤間 俊勝



インターハイに出場して

柔道部

8月11～13日まで秋田県秋田市で行われるインターハイ柔道競技女子個人戦に2名参加してきました。

—78kg級に出場した2年生橋本智聡は、昨年もインターハイを経験しています。1年次から県内の個人戦では、負けておらず、先月行われた夏季柔道大会でも団体・個人共に優勝しました。その勢いで昨年、果たせなかった1回戦突破を目指しましたが、相手は全国強豪校の中心選

手で中盤まで健闘しましたが、最後は押え込まれて負けました。

78kg超級に出場した2年生田嶋歩実は、県大会では2位でしたが1位の選手が怪我をしたために出場権がまわってきました。1回戦では、このチャンスを生かして見事1本勝ちを収めました。2回戦では、格上の相手で力負けをし、投げられて負けました。

この2人はまだ2年生で来年の高校総体で団体戦優勝するための軸となる選手です。このインターハイで一回り成長してくれることを期待しています。

顧問 附田 憲勇



レスリング部

第58回全国高等学校レスリング選手権大会が8月1日から8月4日の期間で岩手県・八幡平市で行われた。我々は、今年で10年連続インターハイ出場である。しかしここ数年、全国の舞台では苦渋を味わうことが続いている。我々の目標はあくまでも全国制覇ではあるが、まずは一勝することが最小目標であった。団体

戦のメンバーは、7人中5人が2年生ある。3年生2人が主軸となり、2年生5人で2つの勝ち星をあげるのが勝ちパターンであった。初戦で対戦した日大藤沢高校との闘いでは、60kgと74kgがキーマンであった。60kg岡沼が相手を追い込みながらも勝負所を見誤り自滅し逆転負け。74kg上野が試合中に足首を負傷し途中棄権負け。キーマンである二人が負けたことでチームは2勝5敗で初戦敗退となった。

個人戦においては、高校王者をめざしチャレンジャーとして挑んだ工藤諒司が、

団体戦の借りを返すべく奮起した。準決勝まで手堅い試合内容で勝ち上がる。準決勝では、対戦相手に技術的に圧倒され敗退したが、工藤らしい強気な姿勢を貫き3位入賞を果たした。

全国大会の決勝の舞台上で闘う選手と比較したときに勝負所の厳しさに明らかな差がある。基本に妥協がない。全ての基本を見直し、何としてでも来年のインターハイでは上位入賞を目指す。

レスリング部顧問 金淵 清文

試合結果

◎団体

2回戦 日大藤沢高校 2対5

◎個人戦

50kg級 豊巻 和守 1回戦敗退
66kg級 工藤 諒司 第3位
84kg級 古川 恭円 怪我のため
1回戦途中棄権
96kg級 栗谷川 寛 3回戦敗退



ソフトテニス部

おかげさまで、平成23年度青森県高校総合大会で14度目の団体優勝をし、インターハイへ出場させて頂きました。本当にありがとうございました。

今年度は、北東北インターハイで男子は青森県、女子は秋田県大館市で行われました。

今年度は東日本大震災で思うような練習

が出来なかった状況の中、苦難を乗り越え選手も大きく成長してくれました。今考えても出場出来るのが、信じられない程喜びでいっぱいです。

過去のインターハイでは団体・個人共ベスト16が最高でしたが、まずは初戦突破を目標に臨みましたが、技術的には決して高くはありませんが気持ちのこもった試合が出来たと思っています。結果は、団体初戦敗退、個人野呂・星山ペア三回戦進出でした。

地域の方々、お世話になった

方々に感謝するとともに、皆様に少しでも勇気を与えられたと信じています。

顧問 佐藤 一成





練習は選手を裏切らない

～硬式野球部の快進撃を振り返る～



先頃行われた全国高等学校野球選手権大会青森大会において本校硬式野球部は準優勝の好成績を収めた。その戦いの足跡を振り返ってみる。

今大会を迎える前のチームの状況は必ずしも良いものではなかった。鈴木監督が病気のためにチームを離れて5ヶ月、チームとしてのまとまりや調整が順調とは言えなかった。春季大会の成績などから鈴木監督の不在を埋めるものがチームに生まれているとは思えなかった。

7月13日、いよいよ迎えた開会式を迎えた。開会式では震災後の復興を願う宣誓やスピーチの中、チームに所属する福島出身の選手（2名）が話題に上るなど記憶に残る大会の幕は切って落とされた。

初戦は開会式直後の対戦で、青森東平内校舎を29対0で下し、2回戦は春季大会準優勝の三沢高校と対戦した。三沢がリードして、本校が追いつくという展開から最後はサヨナラ勝ちを収めた。この勝利で勢いづいたチームは3回戦の弘前実業高戦を9対2、4回戦の八戸工大一高戦を10対8、準々決勝の青森高校戦を



4対3で下し、準決勝の弘前聖愛戦は延長14回の激闘の末11対8と下し、決勝にコマを進めた。

史上初の兄弟校対決となった決勝では、1対9というスコアで光星学院高校に敗れ去ったが、持てる力を存分に発揮して健闘してくれた。最終的に甲子園まではあと一步届かなかったが、堂々の健闘である。応援する人びとや観客にたくさんの感動を届けてくれた夏の戦いであった。

決してかっこいい勝ち方ができた訳ではないが、試合を重ねるたびに選手の姿が大きくなるような頼もしさが日々感じられた。その原動力は何なのか。

2回戦（対三沢戦）の試合中に、「試合を楽しもう」という声が選手から出てきたという。

チームが一つになり、力みが取れて試合を戦っていく選手達。どこにも負けない練習量で培ったプレーが自信を生み、快進撃につながったといえる。練習に懸命に取り組んだその先に準優勝という結果が待っていた。

今回の戦績は鈴木野球の集大成であるといえる。鈴木監督・佐藤監督代行の手腕があつてこそその結果であることは間違いない。また学校関係者や父母、OBなどたくさんの方々への支援や励ましがあつて感動のドラマができあがったものと思う。その尽力・応援の輪に感謝の念を覚える夏であった。

甲子園出場を頂上とすれば、頂上目前までたどり着いた。頂上を極める宿題は後輩の手に託された。更なる高みに向かって一層熱を帯びた練習に部員は励んでいる。



終始なごやか、生徒・保護者と教員で環境整備活動

5月28日(土)、生徒・保護者と教員で学校前庭・中庭の環境整備活動が行われた。

前日までの予報では雨であったが、当日は心配された雨も降らず、作業には絶好の天候となった。参加してくれた保護者の方々は、手際よく作業をすすめ、それにつられるように職員も動いていた。また、生徒達は普段あまり手伝いをしないのか、動作がごちなく保護者から一つ一つ指導を受けながらも、最後までと

ても丁寧な作業していた。保護者の「うまくなったね。」とか「やれるじゃない」などと声を掛けられて笑顔で「はい」と答える場面も見られ、皆に感謝されていた。

全員で、プランターに黒土を入れ、花を植え替える作業に取り組み、色鮮やかなプランターが、玄関や中庭にきれいに並べられた。これから、登校する生徒の笑顔や来校される方々を気持ちよく迎えることができるといふ思いを込めた。

また、今年度が始まって2ヶ月が過ぎ、前庭・中庭の気になり始めた雑草の除草作業も並行して行われ、特に目に付く校舎前の花壇はきれいに草が取り除かれた。

今年度初めてのPTA活動は、総勢35名余りの参加であったが、きれいに咲いた花のように、このような活動を大事に次につなげたいと思いつつ、終始和やかな雰囲気の中で環境整備活動は約2時間で無事終了した。



体育祭、雨にも負けず大声援

6月30日、第36回体育祭が開催された。朝から雨が心配され、開催も危ぶまれたが決行し、開催後まもなく雨がぱらつき始めた。

白軍、赤軍に分かれ、開催された体育

祭だったが、開会式後のプログラム1番「ラジオ体操」が始まったあたりから雨が落ち始め、さすがに生徒たちもざわめき始めたが、競技は続行され、生徒たちは、プログラム2番「短距離走」が始まっ

たあたりから、雨も気にすることなく盛り上がり競技は進行した。しかし、雨は一向にあがる様子もなく降り続いたため、「綱引き」、「軍対抗リレー」など団体競技を中心に進行された。

特に綱引きでは、足場の悪い中、必死に綱を引く各軍の応援も最高潮。自軍の勝利に大声で声援を送っていた。さらに、クラス対抗リレーではクラスの仲間を、また、軍対抗リレーでは、先輩後輩が入り乱れて声援を送った。

天候には恵まれなかったが、仲間にも恵まれた体育祭は、競技後に輪になって自軍の勝利を喜び合う姿が印象的であった。



初体験に歓声!

— 一日体験入学を振り返る —

7月2日(土)、8月8日(月)の両日、一日体験入学行われ、延べ290名余りの中学生が学習・部活動の体験に本校を訪れた。第1回の体験では、3系列で九つのテーマに分かれて活動を行った。

工業技術系の電気工作実習の体験では、ハンダ付け作業や組み立てがうまく行かない生徒もいた。しかし、助手の高校生や保護者の手を借りて真剣に作業に取り組んだ。時間内で完成できなかった生徒もいたが、それでも「初めての作業で難しかった。でも、楽しく貴重な体験の時間を過ごすことができた。」と話していた。他に、コンクリート調合、タイヤ交換の実習や四輪バギーの乗車も行われた。また、人間福祉系列では高齢者の食事介助と乳児の世話の体験を実施。食事介助は数人のグループになってベッドに横たわ



る側と介助する側を交互に体験した。乳児の沐浴、おむつ交換、着替えなども体験するなど、幼児と高齢者へのお世話の大変さを体験した。教養進学系列では、ドライアイスを使ったアイスクリーム作りが実施され、完成したアイスクリームを頬張りながら、楽しそうな笑顔が多くみられた。また、電気パン作りでは、電気コードがショートするハプニングも



あったが、何とかパンが完成した。

第2回は猛暑日となった8月8日に行われた。本校にある五つの運動部と、熱気球クラブを体験してもらった。中学校とは異なった練習方法にもすぐに慣れ、技術指導をする高校生や教員のことばにうなずきながら競技体験に取り組んだ。中には、中学校で所属していた部活動とは異なる種目を選んで体験する生徒もおり、間近でみる異種競技に戸惑いをみせていたが、「暑くて大変だけれど、やってみておもしろくて更に興味がわいてきた。」と話してくれた。

猛暑日ということもあって熱中症などが心配されたが、体調を崩す生徒もなく、汗ぐっしょりになりながら、一生懸命最後まで取り組んでいた。



若さ爆発

野西高祭

7月9日、10日の両日、本校文化祭「野西高祭」が行われた。

一日目は、開催式の後、カラオケ大会が開催され、大いに盛り上がった。また、軽音楽部のバンド3組もステージに上り、文化祭開催の盛り上げに一役買った。

二日目は、盲目のシンガーソングライター板橋かずゆきさんを招いてのコンサートが行われ、生徒たちは歌声に聞き入っていた。

クラス展(1年生・3年生)、系列展(工業技術・オートメカニック・人間福祉)、文化部展(美術部・写真部・ボランティア部)に加え、広報展として光星学院の学校施設などの紹介などされた。校舎前では、3年生、部活動、PTAによる模擬店が行われ、大いに盛り上がった。

本校では、「体育祭」・「野西高祭」・「『のへじ祇園祭』山車運行」と三つの祭りが毎年行われているが、「野西高祭」

(例年10月開催)が7月に行われたため、残る祭りは、8月21日(日)開催される「『のへじ祇園祭』山車運行」のみとなった。



八戸短期大学附属幼稚園

特色ある教育

本園では、短期大学と大学の教員による「造形教室」と「英語教室」を開催し、子どもたちの豊かな感性とグローバルな

コミュニケーション能力を育てている。「造形教室」は年中組を対象に、毎月一回、八戸短期大学の飯田先生にご指導いただいている。ねらいとして飯田先生が目指しているのは、「作品一つ一つを大切に仕上げること」「普段の保育活動の中から、新しい視点を見いだせるような内容を提供し、造形を行うこと」「なるべく、身体（自分の体）を感じられるよう、大きく描けるようなサイズの紙を提供して作品を制作するようにすること」「うまく描くことだけでなく、心で

感じて描けるようになること」等である。子どもたちは生き生きと活動し、教員も多くのことを教わっている。

「英語教室」は年長組を対象に、毎月一回、八戸大学のアンソニー先生にご指導いただいている。先生が心掛けているのは、「楽しく英語に慣れ親しむことを一番とし、小さな間違いにこだわらず、コミュニケーションがとればOKとする」「子どもたち一人ひとりに英語を話す機会を与える」「担任にも参加して英語を話してもらい、英語は外国人だけが話すものではないことを理解してもらう」「英語による読み聞かせをとおして、聞いた文章を使ってみる事が出来るようにする」「英語が楽しいと思えるように、園児が好きな楽しいダンスや歌を取り入れている」こと等である。子どもたちは、どちらの「教室」も毎回、力いっぱい楽しく取り組んでいる。



聖アンナ幼稚園

お父さま、お母さま、大活躍!!

「親子運動会」、「七夕」etc...

聖アンナ幼稚園の運動会は、計画の段階からお母様方とともに活動します。ご家族も楽しく参加できるように、プログラムにもお母様方のアイデアが活かされます。着順、ゴール、スタート、誘導の係などをお母様方（スタートのピストルはお父様）が担当し、入念な打ち合わせを重ね、当日は見事なチームワークで運営を支えてくださいます。全園児参加の

「親子マラソン」で完走のご褒美にいただくメダルは、毎年お母様方がデザインを決め、一つ一つ丁寧に絵を描き順位の番号を記した手作りで、この世にただ一つの逸品です。

「親子運動会」が終わると、PTAでは七夕の「くすだま」の制作が始まります。今年も、7月15日から4日間、三日町の「はっち」に飾られ、多くの市民を楽しませてくれました。

聖アンナ幼稚園のお父さま方、お母さま方は、年間を通じて様々な行事で運営に協力して下さいます。そこには、

いつでも「子どもたちのために」という親としての思いがあり、今では伝統になり、よい教育環境として受け継がれています。



第二しなのめ幼稚園

環境保育を大事に

私たちの生活は自然に包み込まれています。幼稚園では子どもたちが積極的に自然にかかわり、自然を知ろうとしている姿があります

5月。空の泳ぐこいのぼりは行事のシンボルにとどまらず、こいのぼりの泳ぐ様子から「去年はお父さんこいのぼりが強い風に飛ばされて飛んでいったよね」と年長児たち。空と雲と風の様子に関心を持った会話がはずんでいました。また雨の日には、園庭で傘をさして雨の音を聞いたり、水たまりに入ってみたり、傘

を回して水滴を飛ばしたり、雨という自然現象にかかわって楽しもうとする姿も見られました。「いただきます。ごちそうさま」食することの感謝と自然への感謝実りの喜びを味わうジャガイモやさつまいもの栽培、収穫は命の一巡を知る体験でもあります。

今年も暑い日が続き幼稚園でも毎日のように水遊びをしました。おひさまの光を感じながら、子どもたち同士互いに水をかけあったり、色水遊び、寒天遊び、魚釣りなど夏ならではの楽しい時間をすご

しました。飼育環境では、生物の生活を大事にすることに関心を持って欲しいと願いながら「うさぎ」の飼育観察をしています。おなかがいっぱいになったうさぎは、子どもたちがえさをやっても食べようとしないこともあります。子どもたちには動物と親しむ時、抱きかかえたりして遊ぶことだけでなくその動物がどんな生活をしたのかにも気づければと考えています。「どじょう」「かぶと虫」「ざりがに」等の小動物たちも子どもたちとの関わりを待っています。登園時には、飼育箱を覗き込んだり、自宅からえさをもってきては与えたりと、成長の様子を楽しみに見守りながら関わる姿がみられています。私たちは、子どもたちが園環境に積極的に関わりながら、回りの人やものに対するやさしい気持ちが育っていくよりよい環境づくりをしていくつもりです。



びわの幼稚園

楽しかったお泊まり保育

びわの幼稚園では、一学期の終園日、7月22日(金)に園舎を使用して年長さんが「お泊まり保育」を実施した。

参加した園児は12名(男4、女8)全員、午後4時をめどに寝具一式とともに幼稚園ホールへ集合した。集合したなかには数人、緊張と心配が見え隠れしていた子も見られたが、みんなが揃うというものとおりに話し遊び始めた。

夕食はカレーライス。園長先生、事務長さんも隣に座り子供たちは団らんを楽しみながら美味しくいただいた。

食後は一番楽しみにしていた花火大会。それぞれ準備してきた浴衣に着替えさせてもらい玄関へ、防虫スプレーをサッと一吹き、花火大会が始まった。

「火を点ける反対側に火を点けようとする子」、「端を持たずに真ん中を持つ子」、「火を人に向けようとする子」などなど、遊び方を体験、経験から学んだ。打ち上げ花火も終えたころ、あたりは真っ暗闇となりおやつ時間となった。

今回のおやつは、カエルの顔を真似た「手作りカエルちゃんゼリー」で、口の部分を先に食べ「大きな口をあけたカエルさん」などと園児たちは大喜びであった。

就寝の準備が終え、いよいよ一つの部屋にみんなで寝るお泊りがスタート、誰一人泣き出すことも無く「添い寝をお願いする子」、「縦、横に動く子」、「寝言で



叫ぶ子」などなど、あっという間に眠りについた。

翌朝も天気にも恵まれ、元気に6時に起床した。6時30分のラジオ体操、敷地内の散策、7時30分の朝食、9時のお迎え。お迎えにこられたお母さん「どうだった?」、園児「楽しかった。」で無事お泊り保育が終了しました。



光星学院イノベーションプログラム（基金） 寄付者ご芳名

平成19年度以降寄付金累計額 157,293,137円

平成22年度 46,045,994円（寄付協力者278名）

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

（順不同、敬称略）

八戸大学後援会	長谷川美千留	池伊智子	佐藤三	藤浦真由美	金三	清戸	文介	苦島	米田	地泉	高博	志美
八戸大学父母の会	樺 G. アンソニー	川藤村内崎	三後小工小	宏郁久美子	中岩鎌稲井川	祐智千	介美世彩	島小織山梅	田泉川内木	泉川内木	博順国	美一光
八戸大学同窓会	猪股村谷良	外崎田井木端	小工小	藤久千知華文保純賢和昌清和一博正祐長純多裕千涼康良淳徳宗理か俊敬憲貫	田田上村本安藤成小野寺	千翔知秀佳麻衣直弘	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
八戸短期大学後援会	熊佐々木松館山岡沼岡岩金新沼金田三畑石藤小吉桑小遠小瀧三本木篠崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
光星学院高等学校父母と教師の会	熊佐々木松館山岡沼岡岩金新沼金田三畑石藤小吉桑小遠小瀧三本木篠崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
光星学院野辺地西高等学校後援会	熊佐々木松館山岡沼岡岩金新沼金田三畑石藤小吉桑小遠小瀧三本木篠崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
光星学院野辺地西高等学校PTA	熊佐々木松館山岡沼岡岩金新沼金田三畑石藤小吉桑小遠小瀧三本木篠崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
光星学院野辺地西高等学校同窓会	熊佐々木松館山岡沼岡岩金新沼金田三畑石藤小吉桑小遠小瀧三本木篠崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
(株)第一ビルメンテナンス	晴沼岡沼本沢館一田山川宮林田田澤藤幡澤木謙崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
(株)有馬動熱工業所	沼岡沼本沢館一田山川宮林田田澤藤幡澤木謙崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
美保野フェロウシップ(小野寺修)	沼岡沼本沢館一田山川宮林田田澤藤幡澤木謙崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾
家浦藤濱森吹門中法古小山大黒磯中吉堀飼村鈴丹出服戸松内大田矢前村奈日坂	沼岡沼本沢館一田山川宮林田田澤藤幡澤木謙崎島邊地間坂守井浪原戸村藤藤木沢	丸茂田橋関田桐上岩三道早藤村島金蛇佐小高田佐大三馬天高中中蛭土三壬中仁下山野岩佐今	小日橋青安兼丸能若上類安岩類門佐宮吉細館松島早蒔小横加横高中蛭山仲天太赤五附池	久美子春子生雄人久一治誠則仁稔斉正一以修成文幸二作悦男司子子亨寛子貴基香り勝彦勇亮志	川松仲工富小野東上木東石前法納榎石浜山永松武小石市田西岩小中芥畑三田岩宍伊南長	田田上村本安藤成小野寺	美世彩吾香策子子宏毅美清春則実三美子司一香子子代し郎博夫之寛行美子子実章實八喜晶模豊樹	小織山梅鳥籬成浪三坂川若大鈴木三柴道滝東岩河鶴下小野山安一木笹馬佐吉黒大相扇松高屋大早天氏	川内木	谷部田岡上本口狭森木坂村橋崎合田出館木飼崎中藤戸村垣場藤田沢関馬藤倉敷谷川満	喜代寛寿富賢	仁吾

